

## こぼれ話 004号

Q: 国内外で広く使用されている真珠の単位の「<sup>もんめ</sup>匁 (記号: mom)」は、新計量法ではその使用が認められない。

A: 貴金属装身具製作に係る新計量法で用途を限定して使用を許されている非SI単位の計量単は、宝石のカラット (ct)、真珠の質量: 匁 (mom)、金貨の質量: トロイオンス (oz) である。

SI単位の“SI”とは、フランス語の“Le Systeme International d’Unites”、つまり「国際単位系」の略称です。国際的に単位を統一しようという世界で最初の条約は、1875年にフランスで締結されたメートル条約で、その後もメートル法を基本にした単位の統一が進められてきました。そして1960年、国際度量衡総会において採択された世界共通の単位系が、原則「一量一単位」であるSI単位系です。

日本は、1885年(明治18年)にメートル条約に加入、1891年(明治24年)施行の度量衡法で尺貫法と併用することになり、1951年(昭和26年)施行の計量法で一部の例外を除きメートル法の使用が義務付けられた。1991年に日本工業規格(JIS)が完全に国際単位系準拠となり、JIS Z 8203 (国際単位系(SI)及びその使い方)が規定された。

.....  
ブログより

「大工の仕事は面白い。けど……………」

一般にはほとんど使われなくなった尺貫法ですが、建築業界では多くの職人が使っています。1尺はメートル法で約303ミリメートル、尺の下の単位は「寸」、10寸で1尺です。フィート・インチ法では1尺≒1フィートです。昔はフィートは呎、インチは吋という漢字が充てられました。フィート・インチ法が12進法なのに対して、尺貫法は10進法になっています。寸の下は「分」、分の下は「厘」「毛」と続きます。

尺貫法が今でも一般的に使われているのは、土地の単位「坪」でしょう。平方メートルで言われるより、坪で言われた方がピンと来る方も多いのではないのでしょうか。畳2枚で約1坪、1坪は1間×1間(けん)、1間は6尺で、大人が両手を広げたくらいです。ちなみに、300坪

で1反、10反で1町となります。

メートル法は明治1885年（明治18年）にメートル条約に加盟したものの、実施は70余り間塩漬けにされていました。昭和41年になってメートル法に統一されました。当時の通産省は尺表記の曲尺・物差しの販売まで禁止しました。尺表記の曲尺・物差しを商っていた人は店頭には並べられないので、行商の様に売り歩いていました。警察による取り締まりもおこなわれていたようです。

尺表記の曲尺・物差しが販売禁止になった事で、闇で販売して暴力団の資金元になった事もありました。建築に関わる多くの職人がやみで買っていました。これを聞いた永六輔さんらの運動によって、販売禁止は解かれましたが公文書には使えません。私は仕事場では尺貫法、仕事以外ではメートル法と使い分けています。現在でもテレビのサイズ・機械部品はインチ、瓶等の容器は升・合が使われており、あえてメートル法に統一する必要は無かったのではないのでしょうか。業界毎に独自の単位として表示を認めるべきだったと思います。

現在の曲尺は、秀吉の時代に農地に税をかけるために、地の大きさを測る事を目的に長さが統一されたと聞いています。着物を扱う人は鯨尺が使っていますが、建築で使われている曲尺とは長さが違います。鯨尺の1尺は曲尺の1尺2寸5分で、江戸時代になってから生まれたそうです。贅沢を禁止する命令によって袖の長さを規制されたため、物差しの方を長くして規制を逃れたと聞いています。鯨尺と言っても現在はほとんどが竹製ですが、昔は鯨の髭が使われたそうです。鯨尺と同じような理由で関西間が生まれたと聞いています。

建築材料のほとんどが尺を基に製品が作られ、それがJIS・JAS（日本農林規格）となっています。たとえばベニヤ板・耐火ボードはサブロク判・サンパチ判と言い方をします。これは紙のA4・B5等のサイズを表すのと同じで、サブロク判は3尺×6尺・サンパチ判は3尺×8尺です。サブロク判は天井、サンパチ判は壁に使われる事が多い様です。厚みは3分・4分・5分といった言い方をします。当時の通産省の役人は何故メートル法にこだわったのでしょうか。ゴルフ場ではヤードが使われています。例えば、ボクシングの試合でリングアナに体重をキログラムで言うようになって通達を出したらどう思われますか。そんなナンセンスな事を当時の通産省の役人は公然と行いました。

私たちが使う道具に差し金があります。L字形した道具で、直角を出したり長さを測ったりします。大工はJの向きを表、Lの向きは裏という言い方をします。これは優れた道具で、L字形の短い方は表と裏は同じ目盛りですが、L字形の長い方は表と裏では目盛りの打ち方が異なります。表の1尺に対して裏の1尺は1.41尺、つまり $\sqrt{2}$ になっています。差し金は飛鳥時代からあったものらしく、私たちの先人は $\sqrt{2}$ を知っていた訳です。

私は尺は日本の文化と考え、現場では出来る限りメートル法を使わない事にしています。ほとんどの建築士や現場監督が尺を知らないのが現状です。

建築士や現場監督がメートル法で寸法を言っても、私が尺で寸法を確認するので彼らはとまどうようです。時代に逆行している事かもしれませんが、今後若い人にも尺で仕事を教えていきたいと思っています。メートル法を強要した政府への抗議の意味もあります。

.....

公的な資料とは関係ない普段の生活の中では、SI単位以外の単位も問題なく使うことが出来ます。確かに公的には何らかの統一が必要であり、生活の中でもある程度単位が統一されていた方が何かと便利ですね。ただ個人的には、それぞれ歴史のある旧来の単位が無くなってしまふのは寂しい気もしますし、多分、無くなることは無いと思います。